

# 生活単元学習指導案

授業者 甲斐 克宏 (T1) 石丸 恵理子 (T2)

1. 日時 平成 27 年 (2015 年) 10 月 30 日 (金) 5 校時
2. 対象 5 組・6 組児童 生活単元学習 C・D グループ 計 10 名  
(2 年生 2 名、3 年生 5 名、4 年生 1 名、5 年生 2 名)
3. 場所 6 組教室
4. 単元名 「野菜を育てて何をしよう? ～パン作り～」

## 5. 単元目標

子どもの実態に応じて 2 段階設けている。本時では、第Ⅱ段階の子どもが対象となっている。

### 第Ⅰ段階

- (1) 同じグループの友だちの名前、できることが分かり、一緒に行動できる。
- (2) 同じグループの友だちの働きかけを受け入れて調理活動に参加できる。
- (3) 困ったときに、近くの人に支援を依頼できる。

### 第Ⅱ段階

- (1) 同じグループの友だちの得意・不得意を理解し、話し合っ活動の分担ができる。
- (2) 経験や情報を生かして計画を立て、パン作りができる。
- (3) 問題状況が起こったときに、過去の取り組みや人からの情報収集により解決することができる。
- (4) 取り組んだこと(所要時間、温度、手順、感想など)を記録し、表にまとめることにより、前の活動との違いに気付き、次の活動に繋ぐことができる。

## 6. 単元について

### 【生活単元学習について】

5・6 組の子どもは、知的障害学級 7 名、自閉症・情緒障害学級 13 名で構成されている。障害種別の特性は個々に持ち合わせているが、支援体制の問題から生活年齢で学級を編成し、1～3 年を 5 組、4～6 年を 6 組としている。

特別支援学級では、特別支援学校小学部の学習指導要領に基づいて教育内容を設定してよいことになっており、各教科(生・国・算・音・図・体)・道徳・特別活動に加え、『自立活動』という領域が設定されている。『自立活動』とは、子どもの障害や発達の偏りに対する指導で自立した生活を目指すために、「健康の維持」「心理的安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」

「コミュニケーション」の6区分の中から、子どもの実態に即し個別に計画し指導している。

また、特別支援学級は、教科・領域を合わせた指導で、児童の実態に迫った指導を行うことができる。今回取り組む「生活単元学習」は、子どもの生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際・総合的に学習するものである。具体的には、行事単元、季節単元、生活課題単元、制作・飼育を中心とした単元、調理を中心とした単元の5つがある（竹林地毅らによる）。昨年度は調理を中心とした単元について取り組み、調理による野菜の変化や話し合い活動について扱った。今年度はより発展的に取り組むために、「生活課題単元」に視点を当てることにした。問題解決学習には、それぞれの教科で目指すねらいとプロセスがある。支援級の子どもにとっての問題解決学習を考えると、日常生活場が大前提であり、「問題状況の理解 ⇒ 情報の収集 ⇒ プランニングと実行 ⇒ まとめ」というプロセスが考えられる。問題状況に遭遇しても支援を待つのではなく、自分の力で解決するために情報を収集し、解決の道筋を考え解決することで、より自律的に行動できるようになってほしい。

### 【単元について】

野菜を育てることは、野比小学校の特別支援学級で長年取り組んでおり、子どもたちが慣れ親しんだ活動である。野菜の栽培→持ち帰り・調理というのが昨年度までの流れで、教師主導で学習を展開してきた。今年度は、生活課題単元として子どもたちが課題意識を持ち、一つ一つの活動に意味付けし意欲を持って取り組み、問題解決できるように大きなテーマを設定し、生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験できるようにした。そこで、第1次に『テーマの決定』、第2次に『問題解決のための情報収集』、第3次に『プランニングと実行』という流れで単元を構成することにした。

最初に、第1次では、「野菜を育てて何をしよう？」という大きなテーマを投げかけ、子どものやりたいこと、何を作るかなど意向調査から学習を始めた。アンケート記入、名前カードでの意思表示、タブレット画面をタッチする意思表示などにより子どもたちの意向を確認し、「野菜を入れたパンを作る」ことを柱に取り組むことになった。

第2次の『問題解決のための情報収集』では、日常生活上の問題解決に関する行動を観察すると、人からの情報収集と解決が子どもたちの得意なスキルになりつつあることが推測された。学校には多くの教職員がいて、様々な情報にあふれている。子どもたちが困った時に、誰に聞けば良いか。そのためには、相手を理解することが必要になる。これは、社会性の『他者理解』であり、支援級の子どもにとって苦手な部分でもある。そこで、問題解決のために必要な情報を得るスキルを獲得し、実際の場面で活用できることを目指し、必要な情報を収集することを第二次では扱うことにした。

第3次の『プランニングと実行』では、パン作りを行う。プレーンなパン作り、野菜を入れたパン作りを行う中で、グループでの話し合い活動やレシピに沿ったパン作りを行っていく。プレーンなパン作りでは、一つ一つの活動を理解するために、実演や映像を見て文章で表しレシピを書くこと、文章を読んで動作すること、量の種類、時刻・所要時間を実際の場面で学ぶことなどに重点を置く。取り組んだことを、時刻、時間、温度、感想、協力について表にまとめ、次の活

動に生かせるようにする。各グループで2～3回取り組み、他のグループの情報と比べることができるように一つの表にする。

次の「野菜を入れたパン作り」では、プレーンなパン作りの調理手順に、野菜の下ごしらえが加わる。自分たちで決めた野菜と入れ方によって、下ごしらえの開始時刻も変わる。野菜の下ごしらえの仕方と所要時間について情報を収集し、手順カードを並び替えてプランニングする。そして、簡素化した表に、温度、各所要時間、開始・終了時刻、感想を記入し、下ごしらえのタイミングをシールで明示する。野菜の下ごしらえについても表にまとめ、次に生かせるようにしていく。また、作ったパンを食べ、感じたことを自分の言葉で表現する「かんそうボード」もプレーンなパン作りの途中から始めている。自分の表現だけでなく、友だちの表現を知ることにより、より豊かな言語活動に広げていきたい。前次までの活動を生かして、困ったときにどうするかを子どもたちが考え、行動できる力を身に付けてほしいと考える。

グループ編成は、大単元の初めから水やり当番グループを2回調整し、個々の生活技能、子ども同士の関わりの様子等を考慮し、4グループを編成した。意欲を高めるために、グループ名や役割、マークをグループで話し合い決めて取り組んでいる。

## 7. テーマを具現化するための手立て

テーマ「豊かな学びを創り出す のびっ子の育ち」

サブテーマ「～子どものおもいに寄り添った主体的な問題解決の授業づくり～」

### (1) 体験の重視

#### ①栽培活動やパン作り

栽培活動やパン作りなどの体験的活動を取り入れる。実際に野菜を育てたり、パン作りを行ったりする中で、子どもは、「困ったなあ、分からないなあ。」という場面に出会う。子どもはとてもパン作りに対して意欲的である。自ら問題解決に取り組むようになるであろう。

#### ②繰り返し行う

初めての活動には不安を覚え、どのように取り組んでよいか分からなくなってしまう子どももいる。パン作りでは、プレーンなパン作り、野菜を入れたパン作りを繰り返し行うようにする。活動に見通しを持つことができるとともに、以前の経験を生かして問題を解決しようとすると考えられる。

### (2) 言語活動の重視

#### ①人の活用

コミュニケーションに課題がある子どもが多いため、意図的に質問する場を設けるようにする。第2次では、校内にいる先生にインタビューを、第3次では、実際にパン作りを行う。パン作りに詳しい先生は誰か、野菜や調理に詳しい先生は誰かなど、以前の活動と情報を生かして必要な情報を得られるようにしていきたい。また、地域にはパン屋さんもあるので、気を付けていることや工夫なども合わせてインタビューする活動を取り入れ、人と関わる状況を多く盛り込む。



②グループでの活動

パン作りを4～5人のグループで行い、実態に応じて役割分担をすることができるようにした。また、パン作りを時間差で計画や調理を行うことで、困ったときには別のグループの友だちに聞きに行ったり、情報を共有したりできるように促していく。

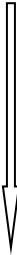



③教材の工夫（話し合いボード、ワークシート、感想ボードの活用）

話し合いの視点が分からないと、話し合いが進まないため、話し合いの場面ではボードに視点を書き、高学年がスムーズに話し合いを進められるようにしていく。また、ワークシートも計画や記録に合った内容のものを用意するようにする。さらに、感想ボードを用意し、試食後に感じたことを自分の言葉で自由に表現できるようにする。

8. 指導計画（50時間程度）

学習活動の流れ	時間	教師の指導・支援	畑の管理 (水やり、草取りを含む)
第1次 野菜を育てて何をしよう？ 『テーマの決定』			
アンケートⅠ 「野菜を育てて何をしたいですか？」 「どんな野菜を育てたいですか？」  アンケートⅡ 「3つの中で何をしたいですか？」  アンケートⅢ 「何を作りたいですか？」	3H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できそうな事柄をヒントにして考えさせる。</li> <li>・過去の経験を思い出させる。</li> <li>・プレゼンを見て賛同できる表示（絵を描く・飾りを作る、あげる・売る、食べる・食べてもらう）に名前カードを貼らせる。</li> <li>・タブレットの画像をタッチして意思表示させる。</li> <li>・野菜を入れたパン作りをするために、必要な栽培活動について（水やり、草取り）などを考えさせるようにする。</li> <li>・子どもの実態に応じて水やり当番のグループ分けを行うようにする。</li> </ul>	ジャガイモ ミニトマト インゲン キュウリ ピーマン ナス 枝豆 
第2次 だれに聞けばいい？ 『必要な情報の収集』			
アンケートⅣ 「困った時どうする？」  ・先生からの情報を収集する。 コミュニケーションスキル 聞いてきたことを表にまとめる。	全体 3H 各グループ 3H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例をあげて、考えさせる。</li> <li>・グループで分担し、協力して活動できるように声かけする。</li> <li>・名前、内容が分かりやすいように写真や絵を活用する。</li> </ul>	サツマイモ カボチャ 三尺さげ トウモロコシ 

第3次 野菜を入れたパン作り 『プランニングと実行』 本時 野菜を入れたパン作り 2回目

<p><u>プレーンなパン作り①②③</u></p>	<p>* 各グループ ×3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に取り組み、経過及び結果を表にまとめさせる。</li> <li>・教師の実際の動きや動画を見せ、手順を視覚的に提示する。</li> <li>・個々の子どもが活動できるよう分担させる。</li> <li>・表やワークシートを活用し、記録やまとめたものを振り返ることができるようにする。</li> </ul>	<p>ニンジン ホウレンソウ</p> 
<p><u>パン作りについての情報収集</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パン屋へインタビューをする。</li> <li>・先生たちへインタビューをする。</li> </ul>	<p>4H</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜を入れる時の注意点は、近隣のパン屋で情報収集させる。</li> <li>・インタビューしてきたことを模造紙にまとめ、振り返ることができるようにさせる。</li> </ul>	
<p><u>全体による情報共有</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの取り組みを報告する。</li> <li>・次の計画を立てる。</li> </ul>	<p>3H</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに表にまとめたことを発表させるようにする。</li> <li>・パンに入れる野菜、下ごしらえについて考えさせる。</li> </ul>	
<p><u>野菜を入れたパン作り①②③</u></p> <p>(野菜の名前、手順表の作り替え、計量、時間、準備、片付け、表にまとめる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入れる野菜と入れ方(のせる、中にくるむ、混ぜ込む)と味を相談して決める。</li> <li>・カードを並べて手順のプランを考える。</li> <li>・調理する。</li> <li>・時間、温度を計り、表にまとめる。</li> <li>・食べた感想を自分の言葉で表す。</li> </ul>	<p>* 各グループ ×3回 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に取り組み、経過及び結果を表にまとめさせる。</li> <li>・個々の子どもが活動できるよう分担させる。</li> <li>・手順カードを並び替え、野菜の下ごしらえの時間によって手順を考えるようにする。</li> </ul>	

\*子どもの参加については、交流授業によって異なる。

## 9. 本時計画

### (1) 本時目標

- ①グループで話し合っ分担し、午前中の取り組みの時刻、時間、温度などを表にまとめることにより、実際の活動を振り返り、前の活動との違いを見付けることができる。
- ②これまでの取り組みを参考にし、グループで話し合っ、翌日の活動の計画を立てることができる。
- ③パンを試食し、感想を自分の言葉で書き表すことができる。

### (2) 個人目標 (本時は①と②の目標とする)

グループ	児童	個人目標	評価
じゃがいもパングループ Jグループ	a	グループのリーダーとして、話し合いやグループ毎の活動を進めることができる。	
	b	自分のやるべきことを理解し、集中して活動することができる。	
	c	友だちの話をよく聞き、自分の考えを大きな声で伝え、最後までグループの活動ができる。	
	d	友だちの話をよく聞き、やるべきことに集中し、グループのペースに合わせて活動することができる。	
	e	友だちの話をよく聞き、やるべきことに集中し、グループのペースに合わせて活動することができる。	
野菜ミックスパングループ Yグループ	f	グループのリーダーとして一人一人の意見を聞き、話し合いやグループ毎の活動を進めることができる。	
	g	友だちの話をよく聞き、自分の考えを相手に聞こえるように伝え、最後までグループの活動ができる。	
	h	友だちの話をよく聞き、自分の考えを大きな声で伝え、最後までグループの活動ができる。分からないことは自分から友だちに聞くことができる。	
	i	友だちの話をよく聞き、やるべきことに集中し、グループのペースに合わせて活動することができる。	
	j	友だちの話をよく聞き、自分の考えを大きな声で伝え、最後までグループの活動ができる。	

### (3) 本時の流れ \*Jグループ：じゃがいもパングループ Yグループ：野菜ミックスグループ

課題のねらい	学習活動	支援の手立て	備考
学習態勢の形成 見通しを持つ	1. あいさつをする。 2. 今日の予定を知る。	・パン作りカレンダーの活動日	座席表

	<p>Jグループ・・・振り返り Yグループ・・・計画</p>	<p>と対応させて学習内容を確認める。 ・グループの支援 T1：Jグループ T2：Yグループ ・座席を提示し、移動できるようにする。</p>	<p>パン作りカレンダー</p>
<p>グループでふりかえろう、計画をたてよう</p>			
<p>友だちとの関わり活動を振り返る記録を書き写す時刻と時間</p>	<p>3. グループごとに話し合う。 必要な物の用意：サブリーダー</p> <p>【Jグループ（児童 a b c d e）】 午前中にパン作りをしたことを、振り返って、表にまとめる。 ①分担をする。 ②紙の大きさを選び、必要な事柄を書く。 （グループ名、日にち、野菜名、温度、開始・終了時刻、活動時間、感想） ③表に貼る。 ④次の野菜と入れ方を決める。</p>	<p>・所要時間（25分）をタイマーにセットし、時間を意識できるようにする。 ・必要な物がそろっているか確認する。 ・ボードを活用して、話し合いを進めるように促す。 ・分担したら表に名前を書くようにさせる。 ・記入の仕方が分からない時は、リーダーに聞く、友だちに聞くなどの手立てを伝えておく。 ・困った時には、友だちに聞く、過去の情報を生かして教師に聞きに行くことを伝える。</p>	<p>タイマー 話し合いボード 記入カード(画用紙) マジック 記録表 表 両面テープ</p>
<p>学習を生かす友だちとの関わり社会性（自己理解）物の名称と表記量と測定プランニング</p>	<p>【Yグループ（児童 f g h i j）】 ・5組の教室に移動する。 ①カードを並び替えて、プレーンなパン作りの手順を作り、報告する。 ②野菜の下ごしらえの仕方を確認する。 ③下ごしらえにかかる時間を考える。</p>	<p>・場所、必要な物がそろっているか確認する。 ・全員で手順カードを貼るように声かけをする。 ・カードを貼った人と内容・手順を確認する。 ・全員が覚えたか確認する。 ・見通しが持てない時は、下ごしらえの動きをし、時間を計</p>	<p>予定表 手順カード マーカー</p>





## 10. 修正本時案

### (1) 本時目標

- ①グループで話し合っ分担し、午前中の取り組みの時刻、時間、温度などを表にまとめることにより、実際の活動を振り返り、前の活動との違いを見付けることができる。
- ②これまでの取り組みを参考にし、グループで話し合っ、翌日の活動の計画を立てることができる。
- ③パンを試食し、感想を自分の言葉で書き表すことができる。

### (2) 個人目標 (本時は①と②の目標とする)

グループ	児童	個人目標	評価
じゃがいもパングループ Jグループ	a	グループのリーダーとして、話し合いやグループ毎の活動を進めることができる。	
	b	自分のやるべきことを理解し、集中して活動することができる。	
	c	友だちの話をよく聞き、自分の考えを大きな声で伝え、最後までグループの活動ができる。	
	d	友だちの話をよく聞き、やるべきことに集中し、グループのペースに合わせて活動することができる。	
	e	友だちの話をよく聞き、やるべきことに集中し、グループのペースに合わせて活動することができる。	
野菜ミックスパングループ Yグループ	f	グループのリーダーとして一人一人の意見を聞き、話し合いやグループ毎の活動を進めることができる。	
	g	友だちの話をよく聞き、自分の考えを相手に聞こえるように伝え、最後までグループの活動ができる。	
	h	友だちの話をよく聞き、自分の考えを大きな声で伝え、最後までグループの活動ができる。分からないことは自分から友だちに聞くことができる。	
	i	友だちの話をよく聞き、やるべきことに集中し、グループのペースに合わせて活動することができる。	
	j	友だちの話をよく聞き、自分の考えを大きな声で伝え、最後までグループの活動ができる。	

### (3) 本時の流れ \*Jグループ：じゃがいもパングループ Yグループ：野菜ミックスグループ

課題のねらい	学習活動	支援の手立て	備考
学習態勢の形成 見通しを持つ	1. あいさつをする。 2. 今日の予定を知る。	・パン作りカレンダーの活動日	座席表

	Jグループ・・・振り返り Yグループ・・・計画	と対応させて学習内容を確認する。 ・グループの支援 T1：Jグループ T2：Yグループ ・座席を提示し、移動できるようにする。	パン作りカレンダー
	グループでふりかえろう、計画をたてよう		
	3. グループごとに話し合う。 必要な物の用意：サブリーダー	・所要時間（25分）をタイマーにセットし、時間を意識できるようにする。	タイマー
		<b>グループの話し合いを別々の教室で行うことで、集中して活動に取り組むことができた。</b>	
友だちとの関わり 活動を振り返る 記録を書き写す 時刻と時間	【Jグループ（児童 a b c d e）】 午前中にパン作りをしたことを、振り返って、表にまとめる。 ①分担をする。 ②紙の大きさを選び、必要な事柄を書く。 （グループ名、日にち、野菜名、温度、開始・終了時刻、活動時間、感想） ③表に貼る。 ④次の野菜と入れ方を決める。	・必要な物がそろっているか確認する。 ・ボードを活用して、話し合いを進めるように促す。 ・分担したら表に名前を書くようにさせる。 ・記入の仕方が分からない時は、リーダーに聞く、友だちに聞くなどの手立てを伝えておく。 ・困った時には、友だちに聞く、過去の情報を生かして教師に聞きに行くことを伝える。	話し合いボード 記入カード(画用紙) マジック 記録表 表 両面テープ
		<b>以前の経験を生かして、分からないときには、リーダーやグループの友だちに聞くことができるようになった。</b>	
学習を生かす 友だちとの関わり 社会性（自己理解）	【Yグループ（児童 f g h i j）】 ・5組の教室に移動する。 ①カードを並び替えて、プレーンなパン作りの手順を作り、報告する。	・場所、必要な物がそろっているか確認する。 ・全員で手順カードを貼るように声かけをする。 ・カードを貼った人と内容・手	予定表 手順カード マーカー

<p>物の名称と表記 量と測定 プランニング</p>	<p>②野菜の下ごしらえの仕方を確認する。</p> <p>③下ごしらえにかかる時間を考える。</p> <p>④前の表を見て、野菜の下ごしらえを始める時刻を考え、決める。</p> <p>⑤手順表ボードを仕上げ、報告する。</p> <p>⑥計量の分担を決め、名前を書く。</p>	<p>順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が覚えたか確認する。</li> <li>・見通しが持てない時は、下ごしらえの動きをし、時間を計るようにする。</li> <li>・前の取り組みから振り返らせる。</li> <li>・一つ一つの手順を思い出させながら確認する。</li> </ul>	<p>野菜カード</p>
<p>情報の共有 感想の言語表現</p>	<p>4. 試食をする。</p> <p>Jグループが作ったパンを試食し、感想ボードに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いが途中で中断し、6組に集合させる。</li> <li>・スムーズに書くことが難しい場合、自分なりの表現を確認してから書くように促す。</li> </ul>	<p>感想ボード</p>
<p>状況に応じた話し方 情報の共有 聞き取り</p>	<p>5. 感想を報告する。</p> <p>感想ボードを見せて、自分の言葉で一人一人発表する。</p> <p>6. あいさつ、片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想ボードを見せながら発表できるようにする。</li> <li>・各グループのよかったところを伝え、次への意欲を高める。</li> </ul>	

**選択肢を提示することで、子ども同士で考える場面ができた。手順表ボードを活用することで話し合いの軸がぶれずに活動を進めることができた。**

**実際にパンを試食することで子どもたちは自分の言葉で感想を書くことができた。思いついたことをすぐに書くことができるようにどの方向からでも感想ボードに書くようにしたことが有効だった。**

## 協議会を終えて

### 1. 体験の重視について

#### (1) 成果

- 活動を繰り返し行いたくさんの経験を積んだことで、よい方向へ子どもの変容が見られた。
- 生活単元学習がただの体験になってしまうこともあるが本実践はそうではなかった。子どもがある視点に気づき、そこから認知へつながる工夫がされていた。特に表やボードが認知へとつながる手立てとなっていた。また先生の言葉かけが良かった。その子の心の中に入っていくようなそんな働きかけができていた。さらに、子ども同士の言葉かけが良かった。先生がよく見取って上手く繋いでいたと思う。
- 本実践で大切な3つのことが共有できた。
  - ①問題解決学習については、個々それぞれの問題が違うので、それを押さえていくことが大事である。振り返りではそれぞれの問題に対してどう解決したのか、パン作りで全体を振り返ることができた。今後の生活に活用していけるようにしていくことが大切。(般化)
  - ②個別の学習については、グループ学習をしていくと見えなくなりがちな個だが、相互に調整作用されていた。グループで活動するときの支援がなされていた。
  - ③子どもたち同士のコミュニケーションをどうつくっていくかについて 以上3つが共有できた。
- 問題解決学習では、自分の課題を持ち選択をしていくことが大切である。今後いろいろな選択をする場面を大切にしたい。

#### (2) 課題

- 一人一人の生活に必要な力は違うので、それを個別指導計画へ反映させていくとよい。活動を般化させることにつながっていく。またそれはキャリア教育へともつながっていくだろう。

### 2. 言語活動の重視について

#### (1) 成果

- それまでの活動を行かして、人と関わりを持ちながら必要な情報を得られるように工夫がされていた。
- 繰り返して行うことで、子どもたちは見通しを持つことができた。
- 授業の中で選択をさせる場面を設け、子どもが意思表示できる場が設定してあった。指導していく中でこうした場面は非常に大切なことである。
- 通常学級に在籍していた頃はなかなか自分を表現できずにいた子どもが本実践では自分を表現することができていた。さらに友だちの行動に対して関わりを持とうとつぶやいている姿があった。
- 教師が関わり過ぎることなく、リーダーをして話を進めることができていた。手立てが有効であった。
- 話し合いボードが視覚的によい手立てとなっていた。時に話が逸れたとしても必ず話がそこへ戻っていくようになっていた。

#### (2) 課題

- 子どもたち同士のコミュニケーションをどうつくっていくかが今後の課題となる。例えば

パン作りの具体物を置いておけば、頭の中で創造して話すよりも話しやすい。先生のアドバイスと合わせて、目の前で確かめながら話すことができる。

- パン作りの表が数字でいっぱいになってしまった。表に写真や絵を取り入れるとよい。子どもによっては視覚的な手立てとして有効だろう。話し合いの時にも助けになる。